

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第742号（令和七年十二月号）

- ・表紙：「年の瀬（年の暮／歳晩）」
- ・来月号（一月号）の兼題



<季語：年の瀬（暮・時候）：子季語：年の瀬、歳晩、歳末、年末>

- ・年の終りちかくで、十二月の終わる頃である。新年の支度で、町は大売出しがあり、家では大掃除や餅つき、門松などの飾りなどで忙しい。寒さも忘れ、活気ある新年の支度のおこなわれる頃である。現代ではクリスマスが終わったあたりからその感が強くなる。

「有名俳人の句」

- | | |
|------------------|-------|
| ・年暮れぬ笠きて草履はきながら | 松尾 芭蕉 |
| ・ともかくもあなた任せのとしの暮 | 小林 一茶 |
| ・たらちねのあればぞ悲し年の暮 | 正岡 子規 |
| ・年の瀬を忙しといひつ遊ぶなり | 星野 立子 |
| ・しんかんたる英国大使館歳暮れぬ | 加藤 楸邨 |

- | | |
|-----------------|-------|
| ・年の瀬や浮いて重たき亀の顔 | 秋元不死男 |
| ・昼の湯にしづむひとりの年の暮 | 石原 舟月 |
| ・歳時記にあそぶ独りや年のくれ | 松本 思桂 |
| ・貸し借りもなき貧しさや年の暮 | 稲井 梨花 |

☆高得点者および高得点句

＊前月の清記表に記載された11名の55句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

18点 碧亥、13点 恵吾、11点 草炎、8点 穂心

<高得点句（4点以上）>

- ・竈馬はねてばあばの及び腰／碧亥・・・・・・・・・・7点
- ・白壁に影ゆらゆらと吊るし柿／恵吾・・・・・・・・・・6点
- ・菩提寺にふるさと詛り秋彼岸／温州・・・・・・・・・・5点
- ・秋風や郷閑出て七十年／碧亥・・・・・・・・・・5点
- ・電柱の陰に身を置く残暑かな／碧亥・・・・・・・・・・5点
- ・十三夜お百度石を廻る影／穂心・・・・・・・・・・4点
- ・郷愁を連れて来るなり秋の風／草炎・・・・・・・・・・4点
- ・バス停の古きベンチや秋時雨／甲舟・・・・・・・・・・3点
- ・墓じまいすれば淋しき曼珠沙華／草炎・・・・・・・・・・3点
- ・水澄むやおんぼろ水車休みなく／恵吾・・・・・・・・・・3点

☆その他のトピックス

1. 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計50句を出句されました。

2. 近況報告

①碧亥さん

- ・身の回りで親しかった人たちの訃報を聞くことが多くなり、しみじみと人生の寂しさを実感することがおおくなったと。

『一葉また一葉と水木落葉かな 碧亥』

②勝さん

- ・これからの寒さに身構える日々となった。体調は相変わらずであるが何とかこの冬を越えられるよう努める。

メジャーリーグ・ワールドシリーズは日本人選手の活躍で楽しませてもらった。ここまで活躍するとは以前には考えられなかった。トランプまでも日本人選手を褒めてくれる時代になった。

国内政治は、初めての女性首相・高市首相が頑張っている。支持率も高い状況で安心である。維新との組み合わせも好感が持てる。今までの古い自民党政治を変えて貰えないかと期待。デフレによる失われた30年は日本経済を世界の上位から中位以下に落ちこぼれさせた。再び上位に顔を出すような政治改革をしてほしい。

これからは、世界はAIに代表されるように、スピードが速くなるようである。到底ついていけない時代となるが、大したことでなくても、自分に何ができるかを考える日々になりたいと思っている。

③要さん

- ・四十年投句してきた朝日俳壇に初入選（十月十九日）。嬉しく大騒ぎをした。

『この度はイメージ通り松手入』（二席・小林貴子選）

選評：何事も頭の中で描いている形にはならないことの方が多い。

要さん、おめでとうございます。

④修平さん

- ・これまで川柳をやっていたので、俳句を詠んでもどうしても川柳的な句になったしまい恐縮している。
芦火では「竈馬」や「蚯蚓」などこれまで知らなかった語句にも会えて、毎号学ばせて頂いている。

⑤穂心さん

- ・先日、柑芦会から会誌「柑蘆」が届いた。紙媒体として発行されるのは、来年の柑芦会百周年記念行事で最後になり、それ以降は電子媒体となる。会費納入者でこれまで通り紙媒体での購読を希望され方には別料金にて印刷・送付される由。

高松の経済学部時代に比べると、母校・和歌山大学も学部が増え、移転統合して40年近くなる栄谷キャンパスも当初の広々とした感じが、最近では雑然とし、狭くさえ感じられるようになった。

昔は、殆どが男子学生だった高松学舎から真砂町（岡山）の教育学部の授業に行くのが楽しみであった。今では4学部1学環と大学院の学生達が同じ敷地内で授業やクラブ活動に励んでおり、和歌山市内であることは、遠くに和歌山城を見ないと思い出せないくらいである。

先日、和大フェスタ（旧・ホームカミングデイ）に参加した。学歌（校歌）と一緒に歌いましょうと促されても、歌えず悲しい思いをした。昔も学歌はあったが、酒席で歌うのは「寮歌・花の霞に」ばかりであった。

学歌は儀式用に荘厳さが加わりかつスローテンポ。聴くには「立派な歌だな」でよいが、我々にはアップテンポにアレンジして貰った方が歌いやすいと思った次第。

神宮球場で、手を振り、肩を組んで、「都の西北・・・」のように、応援歌そして大学校歌として歌いたいと思う。

来年の柑芦会百周年の祝典では、やはり「寮歌」で歌いたいものである。

3. 草炎さん「趣味の作品展」で絵画を出展

◎11月1日（土）に姫路市民会館で「第16回趣味の作品展」が開催され、草炎さんが絵画（水墨画）2点を展示されていました。

小生（温州）と穂心さんが、個別の鑑賞に伺いました。以下はその時の感想です。

この作品展は、毎年この時期に開催されますが、草炎さんは、都度ご自身の作品を展示されてきました。過去には絵画は勿論のこと、陶芸、手芸品等いずれもプロ並みの作品を展示されてきました。

今年は、絵画（水墨画）2点のみの展示でしたが、いずれも素晴らしいものでありました。過日お孫さん同伴で訪れた沖縄の石垣島、竹富島の風景を描かれたものだそうです。

これらの絵画を鑑賞して穂心さんが以下の2句を詠われています。

『水墨に色思わせる文化の日 穂心』

『南国の秋海の碧空の碧 穂心』

以下は小生（温州）が写したスナップ写真です。

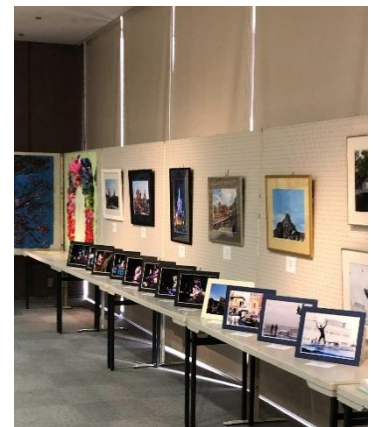
岬（竹富島）・草炎さん作



灯台（石垣島）・草炎さん作



草炎さん（中央）



<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の10名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)